まえがき

平成八（一九九六）年八月四日。

この日、一人の名優が世を去った。『男はつらいよ』シリーズの主人公「寅さん」こと渥美清さんである。

享年六十八歳。

死因は肺ガン。数年前から患っていた肝臓ガンが転移、加療のかいもなく愛する家族に見守られての旅立ちだった。

一報を耳にした時、私は大きな喪失感に襲われた。晩年の八年を超えて、公私を共にした私にとって、その思いは単に一芸能記者としての感慨だけではなかった。

私のような者と晩年の貴重な時間を何故共にしたのか。映画、演劇はもちろん、年齢差を考慮に入れても何一つ対等に話し合える相手ではなかった。

知り合った時は、『男はつらいよ』を年二本から一本に絞り、他のオファーはすべて断っていた。そんな生活を送るなか、共にいろいろな所に赴き、様々なことを語り合った——それはいったい何故だったんだろう。

共に映画を見、観劇し、美術館を巡り歩いた。春、桜が咲けば花見に出かけ、夏が来れば幽霊を見ようと古屋敷を覗きに足を運んだ。どこか子どもじみた行動ではあったが、どれも思い出深いひとときであり、私にとって終生忘れられない人生の一コマとなった。そして、今も誇りに思う。

あの渥美さんの語り口を思い起こしながら、私が知る限りの渥美さんを、ここに記したいと思う。

平成二十七年三月

寺沢 秀明